

ニュースレター

2018年11月30日発行

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2丁目6番9号
tel. 03-3237-7073 fax. 03-5215-1952 mail: contact@aeeri.org

理事長 大橋 英五
編集長 前畑 憲子
事務局 村田 浩司

ニュースレター24号をお送りいたします。

今号では、会員の円谷恵氏から寄せられた韓国の原子力発電所および放射性廃棄物処理場訪問記を掲載いたします。韓国の原子力発電関連の情報掲載はこのニュースレターでははじめてのものです。これからも会員の皆様からの情報をいただき、私たちの活動をより広がりのあるものにしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

なお、すでにお知らせしておりますように、12月2日(日)にROAEEの臨時総会が開催されます。前回のニュースレターにも掲載いたしました「お知らせコーナー」に再度掲載させていただきます。研究会も開催されますので、ご参加をお待ちしております

記事内容

- ・ お知らせコーナー -----1-3
- ・ 報告・記事コーナー -----3-6

☆ お知らせコーナー

1) ROAEE 臨時総会のお知らせ

ROAEE 臨時総会（12月2日）のお知らせ

法改正に伴う定款変更のための ROAEE 臨時総会のお知らせ

特定非営利活動促進法の改正に伴い、毎年度、貸借対照表を公告することが必要になりました。また、公告方法は定款で定める必要があります。

内閣府によれば貸借対照表の「公告の方法は、①官報に掲載、②時事に関する事項を掲載する日刊新聞紙に掲載、③電子公告（法人のHP等）、④不特定多数の者が公告すべき

内容である情報を認識できる状態に置く措置」があるとあり、④については「法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所への掲示」（1年間）が想定されているということです。

以上を踏まえて、2018年10月7日開催の理事会で、貸借対照表の公告はROAEEのHPで行うことを決定し、次のように、定款第46条第1項に「貸借対照表の公告はこの法人のHPで行う。」という文章を追加することを総会に提案することになりました。

「第46条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。貸借対照表の公告はこの法人のHPで行う。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。」

つきましては、以上の定款変更のために、以下の要領でROAEE臨時総会を開催いたしますので、ご出席くださいますようお願いいたします。なお、定款の変更には会員の4分の3以上の同意が必要となります。出席できない方は、是非委任状を提出して下さるようお願いいたします。委任状のひな型を添付しますので、それにご記入のうえ、担当理事の小西の次のアドレスに送信していただくようお願い申し上げます。

konishi@rikkyo.ac.jp

記

特定非営利活動法人アジア環境・エネルギー研究機構臨時総会のご案内

日時：12月2日（日）14：00～15：00

会場：立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室（以前この会議室で総会を行ったことがあります。通常使用している会議室とはことなりますのでご注意ください。）

議案：特定非営利活動促進法の改正に伴う貸借対照表の公告方法の決定、それに伴う定款の改正の件。

なお、総会終了後15：00から、**那須野公人氏（作新学院大学経営学部教授）**を講師として**研究会**を開催します。この件については詳細を追って連絡させていただきます。

2) 12月の研究会(ROAEE臨時総会後の開催)のお知らせ。

日時：2018年12月2日（日）15：00～17：00

会場：立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室

（昨年総会で使用した会議室ですが、5号館は立教通りをはさんで北側の校地にあります。）

講師：**那須野公人氏（作新学院大学経営学部教授）**

テーマ：**ICTグローバル化の進展のもとでのアジア企業のリープフロッグ的發展**

<報告の概要>

様々なデータが示すように、日本及び日本企業の競争力は確実に低下してきており、わが国が自信を持っていた製造業においてさえ、かつて日本を追いかけていた NIEs (新興工業経済地域) にほぼ抜き去られつつあるというのが実態である。日本及び日本企業のこのような競争力の低下は、なぜ生じたのであろうか。また、日本に急速に追いつき追い越すような、アジア企業のまさに「リープフロッグ(蛙跳び)」的な発展は、なぜ可能となったのであろうか。これが報告者の問題意識である。

そこで、日本及び日本企業の競争力低下を確認した後、後発国の工業化に関する先行研究の限界を明らかにしたうえで、筆者の仮説を示すとともに、それを台湾・インド等アジア企業の分析によって実証していきたい。(講師記)

<那須野公人氏略歴>

1954年 長野県に生まれる。

慶應義塾大学 大学院商学研究科 博士課程 単位取得満期退学

博士(経営学)

作新学院大学 経営学部講師、助教授を経て、教授

現在、工業経営研究学会副会長

主 著：『グローバル経営論—アジア企業のリープフロッグ的発展—』学文社、2018年

『アジア地域のモノづくり経営』(共編著) 学文社、2009年

『日本のものづくりと経営学—現場からの考察』(共編著) ミネルヴァ書房、2009年

☆ 報告・記事コーナー

慶州脱核紀行

円谷 恵

本年10月6日から9日まで、私の所属する日本基督教団西片町教会と姉妹教会である韓国基督教長老会ソウル第一教会とが隔年で実施している日韓合同修養会に参加した。今回のハイライトは「慶州脱核紀行」というフィールドワークであった。日本からは9名、韓国からは18名が参加し、韓国の環境保護団体慶州支部のスタッフが同行し、詳しい背景の説明やガイドをしてくださった。

実は一昨年、日本でこの合同修養会を実施した際に、ROAEEの方々はよくご存知の「野間土」による福島被災地ツアーに韓国の方々をお連れしたのが、今回のこの「脱核紀行」の始まりであった。福島の実状を視察したソウル第一教会の参加者は、大きな衝撃を受け、帰国してからすぐ

に「脱核実践委員会」を立ち上げ、瞬く間に教会の屋上に太陽光発電機を設置し、韓国の原発問題にも取り組み始めたのだ。慶州の原発ツアーもその「脱核」の一環として行われた。この「脱核」と言う言葉には、脱原発だけではなく、朝鮮半島および東アジアから核兵器をなくすと言う意味も込められている。

新羅の都であった慶州は、世界遺産登録もされ、様々な観光施設が整備され、外国人観光客も多数訪れる韓国有数の観光都市である。その慶州に原発が6基と核廃棄物処分場があると聞いただけでも驚きであったが、実物を見てさらに驚愕であった。最初に行った月城原発は、写真を見ても分かるとおり、本当に海岸ギリギリに設置されているにも関わらず、防潮堤もなく、建屋もない。韓国では地震も津波もないという前提で建てられたのだと思うが、昨年来、慶州やすぐ北にある浦項でもかなり強い地震が起きている。フクシマを経験した今となつては、安全性という面で到底信じられない光景だ。釜山近くの古里原発に関しても同じなのだが、日本であれば立ち入り禁止区域になっているであろう地域に民家や商店や漁港がある。また、原発本体にかなり近づいても特に注意もされず、さすがに新古里原発の近くに行った際には写真撮影はしないようにと言われたが、それとても、撮った画像を消すようにという指示もなかった。(それで、この画像がある。)

月城原発の半径30km以内には120万人が住んでおり、フクシマ以降、原発の危険性を改めて認識した月城原発付近の住民は2014年に移住対策委員会を結成し、座り込みを始めており、そのテントも訪問した。福島で、生まれ育った故郷を離れることができず、放射線の恐怖との間で悩み苦しむ人々の様子をたくさん見聞きして来たので、移住を要求するということに正直最初は違和感も感じた。しかし、韓国は日本と違って、政府が全ての原発を直接運営しているので、廃止を要求すると言ってもハードルが高すぎる上に、そもそも日本では居住を許可されないような近接した場所で日々生きている人にとっては、それがより現実的な目標なのだろう。

放射性廃棄物処分場は韓国原子力環境公団が運営しており、環境保全に努力していることを積極的に広報している様子で、到着すると「歓迎ソウル第一教会訪問」という電光掲示板に迎えられ、記念写真まで撮って全員に一枚ずつ配ってくれるというテーマパークさながらのサービスで、「原子力に反対しているグループなのに」と皆で苦笑してしまった。ただ、さすがに放射性廃棄物を格納している場所に行く際には、身分証明書の確認や身体検査もあり、何人かは記載事項に相違があるという理由で入場できなかった。地下100メートルに洞窟式処分場があり、そのまですっと手前のドラム缶を一旦置いておく場所までエレベーターで行かせてくれるのだが、閉所恐怖症の人はやめておくように、という注意があった。実はここも岩盤が弱く、地下水を常に組み上げていないと、構造物の安全性が脅かされるのだと教会の方が教えてくれた。美しく近代的な施設とのギャップに恐怖を覚えた。(この施設はさすがに撮影禁止だった。)

今回、この貴重な「脱核紀行」に参加する機会を与えられ、やはり原発の問題は国を超えて取り組まなければいけないことだと改めて認識する機会となった。貴重な経験を与えて下さったソウル第一教会の皆様に深く感謝したい。



☆

☆ 海岸沿いに建つ月城原発。かなり老朽化していることがわかる。一番手前の一号機は既に廃炉が決まっている。



☆

☆ 月城原発近くで座り込みをしている移住対策委員会のテント。中には文在寅が大統領就任前に訪問した際の写真があった。

☆

☆

☆



☆

☆ 新古里原発。奥の方では5号機、6号機を建設中である。完成すると、新旧合わせて10機となり、これだけ一箇所に集中して原発がある場所は世界でも珍しいという。

以上